



## 2026年スタート

明けましておめでとうございます。今年は、スポーツ界では、箱根駅伝往路の驚愕の激走プロ野球では大リーグへの移籍の話題から始まり、冬季五輪、WBC、ワールドカップ、アジア大会と主要大会が目白押しです。オリンピックの起源は、言わずもがな、戦禍を留めて行われたとされています。しかし、現代では、戦禍は止まらず、広がる様相です。地球上にある限られた資源を求め、領土を拡大しようとする歴史は繰り返されています。世界が、大国が自国の理論・正義を武力で推し進めようとしている中、技術や資金を根底にした外交だけでなく、民間交流が重要とされています。この民間交流の礎は文化であり教育です。

1月4日、とある高校での暴力の様子がSNSに上がり、激震が走りました。知事は「卑怯者、弱い者いじめはやめろ」と激怒しました。本当に卑怯なことだと思います。皆さんはどのように考えましたか。

「弱いものいじめ」なのでしょうか。一方的に暴力をふるうものが強く、被害を受けるものが弱いという考え方は、弱肉強食の社会です。力のない者は弱者なのでしょうか。

また、SNSによる拡散についても議論されています。デジタルタトゥーと更生。ただの興味本位で拡散するのは絶対にいけないことです。しかしながら、学校や職場等での暴力が拡散されるのは、「暴力を暴力として認定してもらえない」社会への不満という見方もあります。

教師となり教育に携わる時、上記の不満にどのように対応しますか。

そもそも、声の大きさ、体格の大きさの違いなどの他、気遣いや価値観や気性など家庭環境・生育環境の影響による違いはあるものです。高校や、大学進学などによりコミュニティーが変化したことで、自分の常識が他人と異なることを知ったことはありませんか。コミュニティーが偏ることで、自分を是とするコミュニティーに依存することで、他の価値観を認めたり受容したりできないことが多いものです。

適度にコミュニティーをシャッフルしたり、複数のコミュニティーを持たせたりする工夫が必要です。

しかし、その際には、少なからず、生徒にはストレスが加わりますから、そのストレスに対する強度と適応を見極められる教師の目と家庭との連携が必要です。教師として、授業や特別活動でも、生徒の目線の送り方や、言葉遣い、態度等から敏感に情報収集し的確に理解する力が必要です。一人ではもちろん限界があります。学年会や分掌会、教科会や委員会の多くの目と広い見識をもとに、実行力が求められるのです。

さらに、学校と家庭はチームを組み、情報を共有し、目標設定をあわせていけるのが理想です。一朝一夕に事が運ぶことは稀です。教師としての信頼を得られる態度について考えてみましょう。

## イベントについて

☆ アナウンサー大橋照子先生による話し方講座 2月25日(水) 13:20~17:00

対象 2年生 3年生 「話し上手は聴き上手」。教員に限らずどの職種でも「聞く」が大切です。傾聴・受容・共感「聞く」の3大要素です。この「聞く」から得る情報で、話すことが、相手の心を開き惹きつけるのです。

☆ 次年度教育実習実施者向け「教育実習事前講義」3月25日(水) 3限

## 1月のTRY

自分の志望する教科および校種において、いじめを防止する取組みについて、あなたの考えを具体的に述べなさい。(希望する自治体の字数)